

編 集 後 記

梅雨明けに近いといってもジメジメとした
しかもむし暑い夜に、蚊取線香の煙を気にし
ながら読みはじめた8号も、頁が進むにつれ
て暑さも煙もそれほど気にならなくなってし
まった。

まず渡辺氏の「徒手筋力テストの諸問題」
は、立派な総説でもある。恐らくリハビリテ
ーション医学では、徒手筋力テストを知らな
くはやって行けないといっても過言ではな
い。しかし、最近の流行句で言うならば「あ
んた（筋力テスト）この子（筋力）の何なの
さ」と言いたいほど漠然としたものを感じら
れる。判断する時、テストを行う時等の問題
点がはっきり浮きぼりにされていて、興味深
い。図2に示されている簡明な図は是非私達
も使用させていただきたいと思っている。

長田・中屋両氏による「関節 可動域 の評
価」は、特に股関節の可動域について詳説さ
れている。力作でありいかにも頁数が不足し
ている感じがする。他の諸関節についても対
象者の幅を広げ他の機会に発表していただき

たいものである。

今田氏の ADL 評価に関する論文は、氏が
平生から評価基準委員会等で種々お考えにな
っていることがうかがわれる。某県の身障手
帳診断書の日常生活動作の欄に「最敬礼」が
できるかどうかというのがあり、この具体的
な意義について私自身もしばらく考え込んだ
ことがあった。

福井氏の失語症の評価についての論文は、
私にとっては新しいことが多く、勉強させて
いただいた。同様に座談会も、各発言者のと
り上げ方が少しずつ異なった立場にあるため
か、とても興味深かった。

陳氏の巻頭言は具体的な問題のとり上げ方
がなされており理解しやすい。ただ、すでに
でき上がっているものを変えることには大変
な困難を伴ってくる。岡山県で計画されてい
る吉備高原都市は、その点われわれの夢を大
きく前進させてくれるものと期待している。

(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
青 山 孝
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
金 久 卓 也
兼 松 英 夫
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
中 村 裕
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
三 島 博 信
山 内 裕 雄
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
野 本 卓

(以上五十順)
(順、敬称略)

(細田、田村、鹿島)

次 号 予 告 (第3巻第9号)

巻頭言 リハビリテーションの進歩と人材……………府中リハ学院 五 味 重 春

特 集 評 価 II

各法にみられる機能評価の比較……………国立身障センター 橋 倉 一 裕

損害賠償における障害評価の法理論……………法務省 加 藤 和 夫

障害者の職能評価への試み……………都総合技能開発研修所 前 野 進

片麻痺の評価……………東大 上 田 敏

脳性麻痺の評価(主として文献的な考察から)……………ひかり整肢学園 寺 沢 幸 一

研 究 多発性硬化症の運動・動作障害……………都神経研 中 村 隆 一・他

報 告 前腕 Northwestern University Supracondylar

Suspension Technique Socket の経験例……………岡山大 森 田 能 子・他

講 座 心理テスト(6)……………横浜国大 中 司 利 一